

### 3 鳥類

#### (1) 調査日

夏季：平成 18 年 7 月 24～25 日

冬季：平成 18 年 12 月 22 日

#### (2) 調査方法

藪牟田池一帯の鳥類相を把握するために以下の調査を行った。

##### ア ルートセンサス調査

あらかじめ設定したルートにおいて、早朝に時速約 2km/時で歩きながら、片側 25m、両側 50m 以内で確認された鳥類の種類および個体数を記録した。なお、人為的に移入された種についても補完的に記録した。また、調査時間以外に確認された種についても補完的に記録した。調査には約 8 倍の双眼鏡を用いた。

##### イ 定点調査

調査地点において、30 分間観察を行い、確認された鳥類の種類および個体数を記録した。なお、人為的に移入された種についても補完的に記録した。調査には約 20 倍の望遠鏡および約 8 倍の双眼鏡を用いた。

#### (3) 調査地点

藪牟田池及びその周辺域に、ルートセンサス調査の踏査ルート 3 本 (R-1～R-3) 及び定点調査の定点観測地点 3 カ所 (St.1～St.3) を設定した。

調査ルート及び定点観測地点を図 4-12に示し、地点の概要を表 4-8に示した。

表 4-8 調査ルート及び定点観測地点の概要

調査方法	番号	調査地の概要
ルートセンサス	R-1	藪牟田池湖畔を一周するサイクリングロード沿いのルート (距離:3.0km)。周辺環境は湿地, 畑地, 開放水域。
ルートセンサス	R-2	藪牟田池～飯盛山の道路沿いのルート (距離:1.5km)。周辺環境はスギ・ヒノキ植林, 常緑広葉樹林。
ルートセンサス	R-3	藪牟田池～竜石山の道路沿いのルート (距離 1.6km)。周辺環境は茶畑, スギ・ヒノキ植林, 常緑広葉樹林。
定点調査	St.1	藪牟田池の開放水域全体が展望できる池の東側の展望台。
定点調査	St.2	藪牟田池の湿地が観察できる池の北側のサイクリングロード沿い。
定点調査	St.3	藪牟田池の湿地や湖畔林, 周辺の耕作地が観察できる池の西側のサイクリングロード沿い。

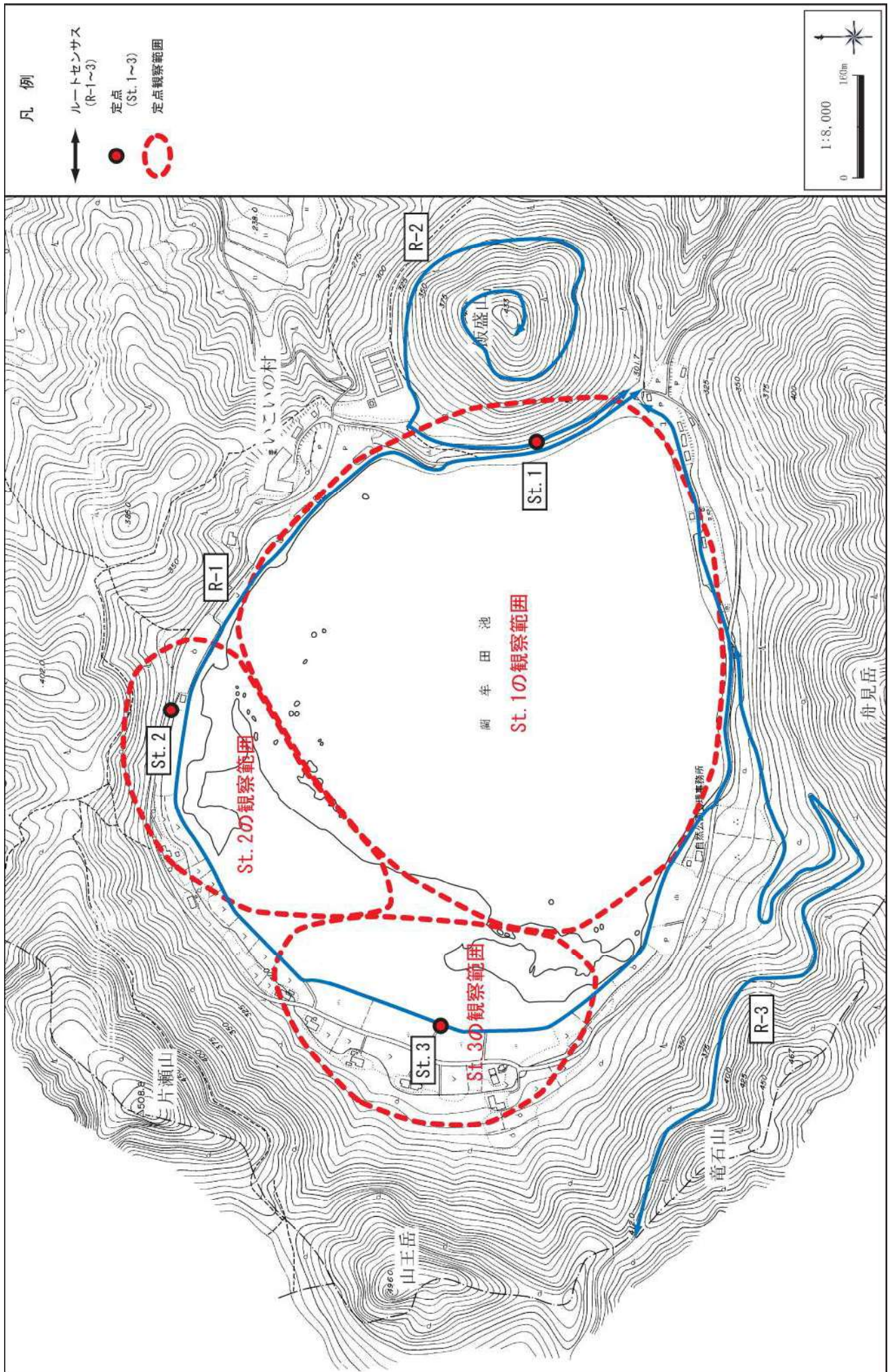


図4-12 鳥類調査地点位置図

#### (4) 調査結果

調査結果を表 4-9に示した。

調査の結果、藺牟田池全体で 25 科 40 種の野鳥及び 4 種の移入種（コブハクチョウ、ガチョウ、アイガモ、ドバト）が確認された。

このうち、ルートセンサス調査では 20 科 33 種の野鳥及び 4 種の移入種が確認された。

ルートセンサス調査の結果から各ルートの季節別の出現種（移入種を除く）を比較すると、藺牟田池湖畔のルート（R-1）では、夏季にゴイサギ、カルガモ、カワセミ、ヒヨドリ、ウグイス、ホオジロなど 12 種、冬季にはマガモ、ヒドリガモ、オオバン、カワセミ、ハクセキレイ、ビンズイ、エナガ、アオジなど 22 種が確認された。特に冬季にはマガモやヒドリガモ、オオバン、ビンズイなどの冬鳥が飛来したため、出現種数、個体数はともに大幅に増加した。外輪山の東側にあたる飯盛山の登山ルート（R-2）では、夏季にコジュケイ、アオゲラ、ウグイス、シジュウカラ、メジロなど 6 種、冬季にはヒヨドリ、ジョウビタキ、シロハラ、ミヤマホオジロ、カワラヒワなど 9 種が確認された。また、外輪山の西側にあたる竜石山のルート（R-3）では、夏季にキジバト、コゲラ、ウグイス、シジュウカラ、ホオジロ、カケスなど 13 種、冬季にはコジュケイ、ヒヨドリ、シロハラ、エナガ、メジロ、アオジなど 9 種が確認された。

定点調査では 19 科 24 種の野鳥及び 3 種の移入種が確認された。

定点調査の結果から各定点の季節別の出現種及び個体数（移入種を除く）を比較すると、開放水域が観察できる地点（St.1）では、夏季にヒヨドリ、ウグイス、ホオジロ、スズメ、ヒドリガモなど 6 種 11 個体であったが、冬季はマガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、スズガモなどの水鳥が増加したため、10 種 635 個体が確認された。同様に湿地が観察できる地点（St.2）においても夏季にホトトギス、ツバメ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、など 6 種 13 個体であったが、冬季はカイツブリ、ダイサギ、マガモ、コガモ、オナガガモなどの水鳥が増加したため、11 種 132 個体が確認された。また、湿地や河畔林、耕作地が観察できる地点（St.3）においては、夏季にキジバト、ヒヨドリ、ウグイス、ホオジロなど 8 種 12 個体、冬季はキジバト、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ホオジロなど 8 種 55 個体が確認された。

保護上重要な種としては、鹿児島県レッドデータブック及び環境省レッドリストで準絶滅危惧に指定されているミサゴが確認された（図 4-13）。通常、本種は海岸や河口周辺で確認されることが多く、藺牟田池のような内陸で確認されることは珍しい。また、調査時間外に 1 回確認されたのみであるため、餌の探索のために河川を遡ってきたものと考えられ、藺牟田池周辺に常時生息している個体である可能性は小さい。

表 4-9 鳥類調査結果

目名	科名	種名	夏 季						冬 季						
			ルートセンサス			定点			ルートセンサス			定点			その他
			R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3	R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3	
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ										1	4		
ペリカン	ウ	カワウ										1			
コウノトリ	サギ	ゴイサギ	1						1						
		ダイサギ												1	
カモ	カモ	マガモ						153				397	105		
		カルガモ	2									29			
		コガモ												8	
		ヒドリガモ	4			4			279			197			
		オナガガモ							2			7	7		
		スズガモ							1			3			
タカ	タカ	ミサゴ													1
キジ	キジ	コジュケイ		1			1	1		1					1
ツル	クイナ	オオバン							2						
チドリ	シギ	ヤマシギ													1
ハト	ハト	キジバト	3		1			3							1
カッコウ	カッコウ	ホトトギス					1								
ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	1						1						
キツキ	キツキ	アオゲラ		1				1							
		コゲラ	1		1										
スズメ	セキレイ	ハクセキレイ							3						1
		ビンズイ							2						
	ツバメ	ツバメ			1		1								
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	10	1	4	2		2	34	12	14		1	7	
	モズ	モズ							1						1
	ツグミ	ジョウビタキ									1			1	
		シロハラ								1	2	4			
		トラツグミ			1										
	ウグイス	ウグイス	6	3	2	1		2	4	2			1		
	エナガ	エナガ							6		6				
	シジュウカラ	ヤマガラ			2					2					
		シジュウカラ		1	6					2		2			
	メジロ	メジロ		2	1				8	5	3		2		
	ホオジロ	ホオジロ	15		3	1	3	1	17	5	1		1	12	
		ミヤマホオジロ									8				
		アオジ								6	4	8			
	アトリ	カワラヒワ					2			8					
	ハタオリドリ	スズメ	19		4	2	5	1	6					30	
	カラス	カケス	1		1										
		ハシボソガラス	6							7					
ハシブトガラス				1	1		1	2		1		1	2		
移入種	移入種	コブハクチョウ	24			42	5		48			38			
		ガチョウ	1			1						1			
		アイガモ	3			8	1		12			8			
		ドバト							1						
個体数合計			97	9	28	62	19	12	601	47	40	682	132	55	2
種数合計			15	6	13	9	8	8	25	9	9	10	11	8	2
			23			15			29			23			2
			25						38						

備考) 数字は個体数を示す

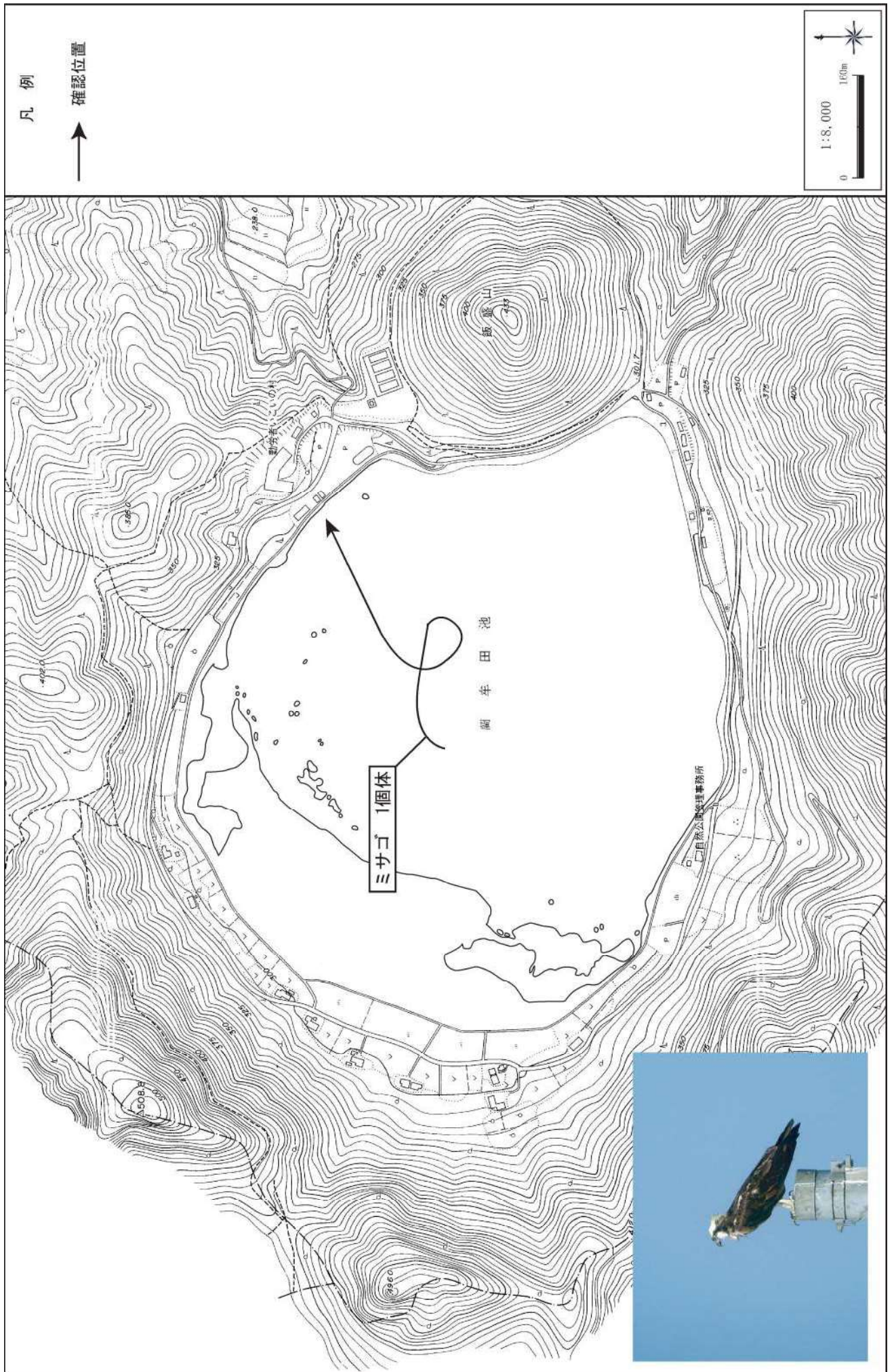


図4-13 保護上重要な種の確認地点 鳥類

(5) 考察

現地調査及び文献調査で確認された鳥類を整理して表 4-10, 表 4-11に示した。

既存文献の収集・整理を行った結果, これまでに藺牟田池では, 12 目 26 科 54 種の鳥類が確認されている。今回の調査でゴイサギ, ダイサギ, オナガガモ, スズガモ, ミサゴ, オオバン, ヤマシギ, ホトトギス, カワセミ, アオゲラ, ツバメ, トラツグミ, ヤマガラ, ハシブトガラスの 14 種の鳥類が新たに確認され, これらを加えると藺牟田池一帯では 13 目 28 科 68 種 (移入種は除く) の鳥類が確認されたことになる。

これまでに確認された種を鹿児島県産鳥類リスト (所崎・山元, 1999) に基づいた生息区分にあてはめると, 留鳥が 34 種, 冬鳥が 30 種, 夏鳥が 2 種, 旅鳥が 2 種となった (移入種は除く)。藺牟田池一帯では, 夏鳥の確認が少なく, 冬鳥が多く確認されていることから, 渡り鳥の繁殖地としての利用は少なく, 越冬地としての利用が多いという特徴が見られる。

環境省 (1987) には「藺牟田池には, 多いときは 3000 羽程度のマガモ, コガモが渡来したが周囲にレクリエーション施設ができてからカモ類の数が減少した」との記述がある。また, 桑原 (1974) は, 1974 年の探鳥会でマガモ, カルガモ, コガモ 2262 個体を報告している。今回の定点調査での確認個体数はマガモ, カルガモ, コガモ, ヒドリガモ, オナガガモ, スズガモなど約 750 個体であり, 昔と比較すると渡来数は 3 分の 1 程度となっている。

また, 今回の夏季調査でヒドリガモが 4 個体確認されているが, 通常ヒドリガモは鹿児島県では越冬のために飛来し, 春季に繁殖地であるユーラシア大陸の高緯度地方に渡っていく冬鳥であるため, 今回確認されたヒドリガモは餌付けによって居残ったものと考えられた。

表 4-10 現地調査及び文献調査の結果

目名	科名	種名	種の特性				現況調査	既存文献	文献番号	指定区分※3			
			移動※1	生息環境※2									
				A	B	C					D		
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	留鳥			○		●	●	1,2			
		ハジロカイツブリ	冬鳥			○			●		2		
ペリカン	ウ	カワウ	冬鳥			○		●	●	2			
		ウミウ	冬鳥			○			●		2		
コウノトリ	サギ	ゴイサギ	留鳥	○		○		●					
		ダイサギ	留鳥			○		●					
		アオサギ	留鳥			○			●		2		
カモ	カモ	オシドリ	冬鳥			○			●		2		
		マガモ	冬鳥			○		●	●	1			
		カルガモ	留鳥			○		●	●	1			
		コガモ	冬鳥			○		●	●	1,2			
		トモエガモ	冬鳥			○			●		2	環Ⅱ	
		ヨシガモ	冬鳥			○			●		2		
		ヒドリガモ	冬鳥			○		●	●	2			
		オナガガモ	冬鳥			○		●					
		スズガモ	冬鳥			○		●					
		ハシビロガモ	冬鳥			○			●		2		
		キンクロハジロ	冬鳥			○			●		2		
		タカ	タカ	ミサゴ	留鳥			○		●			鹿準,環準
				トビ	留鳥			○	○		●		2
ツミ	冬鳥			○			○		●		2		
ハイタカ	冬鳥			○					●		2	鹿準,環準	
ノスリ	冬鳥			○			○		●		1,2		
サシバ	留鳥			○			○		●		2	環Ⅱ	
チュウヒ	冬鳥					○			●		2	鹿Ⅱ,環ⅠB	
ハヤブサ	冬鳥					○	○		●		2		
キジ	冬鳥					○	○		●	●	1		
ツル	クイナ	キジ	留鳥			○			●		2		
		バン	留鳥			○			●		2		
チドリ	シギ	オオバン	留鳥			○		●					
		タシギ	留鳥			○			●		2		
ハト	ハト	ヤマシギ	冬鳥	○				●					
		キジバト	留鳥	○				●	●	1			
カッコウ	カワセミ	アオバト	留鳥	○					●		2		
		ホトトギス	夏鳥	○				●					
ブッポウソウ	カワセミ	ヤマセミ	留鳥			○			●		2		
		カワセミ	留鳥			○		●					
キツツキ	キツツキ	アオゲラ	留鳥	○				●					
		コゲラ	留鳥	○				●	●	2			
スズメ	ツバメ	ツバメ	夏鳥				○	●					
		セキレイ	キセキレイ	留鳥			○			●		1	
			ハクセキレイ	冬鳥			○		●	●	1		
			ビンズイ	冬鳥	○			○	●	●	1		
			タヒバリ	冬鳥			○	○		●		1	
	ヒヨドリ	留鳥					●	●	1				
	モズ	留鳥	○			○	●	●	1				
	ツグミ	ジョウビタキ	冬鳥				○	●	●	1			
		トラツグミ	留鳥	○				●					
		シロハラ	冬鳥	○				●	●	1			
		ツグミ	冬鳥	○				●	●	1			
	ウグイス	ウグイス	留鳥	○				●	●	1			
		オオヨシキリ	冬鳥			○			●		2		
		キクイタダキ	冬鳥	○					●		2		
	ヒタキ	旅鳥	○					●		2			
	エナガ	留鳥	○				●	●	1				
	シジュウカラ	ヤマガラ	留鳥	○				●					
		シジュウカラ	留鳥	○				●	●	1,2			
	メジロ	留鳥	○				●	●	1,2				

表 4-11 現地調査及び文献調査の結果

目名	科名	種名	種の特性				現況調査	既存文献	文献番号	指定区分 <sup>※3</sup>	
			移動 <sup>※1</sup>	生息環境 <sup>※2</sup>							
				A	B	C					D
スズメ	ホオジロ	ホオジロ	留鳥		○		○	●	●	1,2	
		ミヤマホオジロ	冬鳥	○				●	●	1	
		アオジ	冬鳥	○				●	●	1	
	アトリ	カワラヒワ	留鳥				○	●	●	1	
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥				○	●	●	1	
	ムクドリ	コムクドリ	旅鳥	○					●	2	
	カラス	カケス	留鳥	○				●	●	2	
		ミヤマガラス	冬鳥			○	○		●	2	
		ハシボソガラス	留鳥			○	○	●	●	1	
		ハシブトガラス	留鳥			○	○	●			
移入種	コブハクチョウ	-	-	-	-	-	●				
	ガチョウ	-	-	-	-	-	●				
	アイガモ	-	-	-	-	-	●				
	ドバト	-	-	-	-	-	●				
合計											
13目(野鳥)	28科(野鳥)	72種(野鳥+移入種)		28	1	34	18	44	54	5	

※1 移動：所崎，山元（1999）を参考にして区分した。

留鳥：季節ごとの移動はせず，一年を通じて同じ地域に生息する種

夏鳥：春季に日本より南の地域から渡来して繁殖し，秋季には温暖な南の越冬鳥地へ渡る種

冬鳥：秋季に日本より北の地域から渡来して越冬鳥し，春季には北の地域へ渡り繁殖する種

旅鳥：春季と秋季の渡りの途中において日本に立ち寄り通過していく種

※2 生息環境：鹿児島県愛護協会（1981）の生息環境区分を引用した。

A 森林 B 草原・原野 C 海岸・湖沼等 D 耕地周辺

※3 保護上重要な種の抽出の基となる法律及び文献

・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年，法律75号）

・鹿児島県編（2003）鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編—鹿児島県レッドデータブック．財団法人鹿児島県環境技術協会

・改訂環境省レッドリスト（平成18年公表）

（指定区分の凡例）

鹿Ⅱ：鹿児島県レッドデータブックに絶滅危惧Ⅰ類として記載されている種

鹿準：鹿児島県レッドデータブックに準絶滅危惧として記載されている種

環ⅠB：環境省レッドリストに絶滅危惧ⅠB類として記載されている種

環Ⅱ：環境省レッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として記載されている種

環準：環境省レッドリストに準絶滅危惧として記載されている種

#### 《参考文献》

- 1 桑原一廣（1974）本県における生物・地学教材の研究 鹿児島県教育センター研究収録5(1):67-76
- 2 鹿児島県保健環境部保健管理課（1982）鹿児島県の野鳥．財団法人鹿児島県公害防止協会
- 3 所崎 聡，山元幸夫（1999）鹿児島県産鳥類リスト．鹿児島県立博物館研究報告 18:21-42.
- 4 鹿児島県自然愛護協会（1981）市町村別 鳥類分布調査報告書（北薩地区）．鹿児島県自然愛護協会．
- 6 溝口文男（2003）ミサゴ，「鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 鹿児島県レッドデータブック 動物編」，p. 67．鹿児島県